

Monday

12/10

Friday

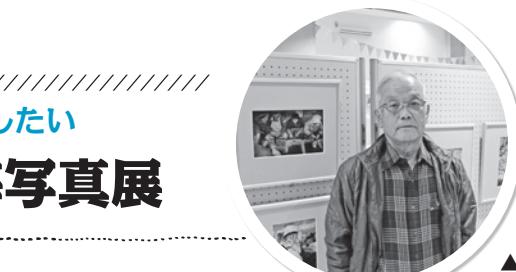
12/14

宝の海を人々の記憶に残したい

第3回 有明海写真展

第3回有明海写真展（主催：南里忠宏さん、協力：佐賀ユネスコ協会）があいぱれっとで開催され、市内外から多くの人が訪れました。南里さんは“諫早湾干拓事業”をきっかけに移り変わりゆく有明海や漁業者の姿をいろんな人たちに見て欲しいとの思いで写真展を佐賀県内で開催しています。写真は、長崎、熊本、佐賀、福岡各地を訪れ“有明海の今”を収めました。

来場者は「佐賀にいるのに、有明海に行ったことがなかつたが、こんなに綺麗で初めて見る生き物がいて驚きました」と写真1枚1枚を真剣に見入っていました。



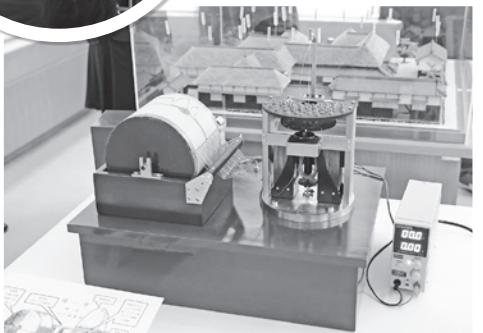
▲お気に入りの写真をバックに
主催者の南里忠宏さん



▲写真に興味津々な親子



▲前島正裕さんの話に聞き入る



▲志田林三郎が考案した地電流の観測器「電気の強弱方向を自記する新器械」の復元

多久出身の偉人が考案した器械が復元

志田林三郎特別展記念講演会 開催！

Sunday
12/16

郷土資料館で行った特別企画展「志田林三郎～幕末維新を駆け未来を予見した若き電気工学者～」（主催：多久市教育委員会）の公開にあわせ、寒鶯亭で講演会を開催しました。

講演では、志田林三郎博士が考案した地電流を観測する「電気の強弱方向を自記する新器械」を復元した国立科学博物館科学技術史 前島正裕グループ長が「『電気の強弱方向を自記する新器械』と、志田林三郎が夢見た電気の世界」をテーマに、電気技術の発達と林三郎の生涯や特別展に展示されている器械の特徴を紹介しました。

参加者の1人は「幼児教育に携わっているので、博士のように子どもたちの考える力を伸ばせるように接していくたい」と感想を話されました。



▲優勝カップと賞状を手に取る
樋口さん（写真右）と掛林さん（左）

Thursday
1/10

昨年の惜敗を乗り越えて

多久高校がスポーツクライミング選手権大会で団体優勝

1月10日㈭、第9回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会リード競技女子団体で優勝した、多久高校登山部2年生の樋口結花さんと1年生の掛林紗衣さんが市役所を訪れ、横尾市長へ優勝報告を行いました。

この大会は、平成30年12月22日㈯、23日㈰に加須市民体育館（埼玉県）で開催され、全国から男女211名の選手が参加しました。

樋口さんは「去年は狙っていた結果が出せず、とても悔しかった。今年は絶対優勝したいと思っていたので、優勝できてうれしい」と優勝の喜びを話し、掛林さんは「初出場でプレッシャーもあったが、結花さんに教えてもらい悪いところを改善できたので、優勝することができました」と大会を振り返りました。



▲横尾市長らと記念撮影